導入検討プラン 03 / 顧客の利用を支える

学習拠点の経験を、顧客の現場へ

モビリティ・運用サービス

実践学習の拠点や教育内容が整い、学んだ担当者が顧客の現場へ戻るとき。既存の伴走支援を確認し、現地の条件に合わせて判断する部分を選びます。

> 目指す仕事の状態
>
> 担当者が顧客の運用条件を見て、学んだ方法のどこを使い、どこで技術・サービスへ相談するか選べる。

当社が担う仕事

01 条件の違いを比べる

学習時と実案件の使い方、人員、運用条件を並べ、同じ方法が使える部分と確認が必要な部分を分けます。

02 支援を選ぶ経験をつくる

営業・技術・サービスが持つ情報を結び、担当者が顧客への支援を選ぶ一件を設計します。

03 現場の結果を戻す

顧客の利用と再対応を振り返り、現地で必要だった支援を、育成側へ返す材料にまとめます。

最初に試す一件

研修を終えた担当者が車両運用を支える一案件を選び、学習時と違う顧客の条件を確認して、支援の選び方を記録します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 学習時に扱った条件と、顧客の現場で違う条件は何ですか。
- 顧客の使い方を知っているのは、どの担当者ですか。
- 既存の現場支援で十分な部分と、追加確認が要る部分はどこですか。

社内に残すもの

- 学習時と実案件の条件比較
- 担当者が選ぶ支援と相談先の計画
- 育成側へ戻す実務の確認記録

実践後に確かめること

- 顧客が製品やサービスを運用できた場面
- 担当者が支援を選んだ理由と再対応
- 現地・育成側それぞれの支援負担

一緒に進める人と役割

育成担当・事業責任者	学習内容と既存の伴走支援を共有し、対象案件を選びます。
営業・技術・サービス	顧客の条件を確かめ、支援を選び、利用結果を記録します。
当社	学習と現地の仕事を結ぶ課題を設計し、振り返りの観点を整えます。

実施条件と、役割の範囲

研修の内容と対象案件を照合でき、顧客の利用後まで確認する機会を設けます。 専門技術の内容や認定は既存の体系を用います。現行の教育と伴走で必要が満たされる場合は、追加支援を設けません。

支援を組み立てる根拠

学んだことを実務で使い直す経験設計を用います。顧客固有の技術・運用条件は、専門担当と共同で確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request